

ファミリーマート夢の掛け橋募金

主な活動・連携事業報告 2025-2026年



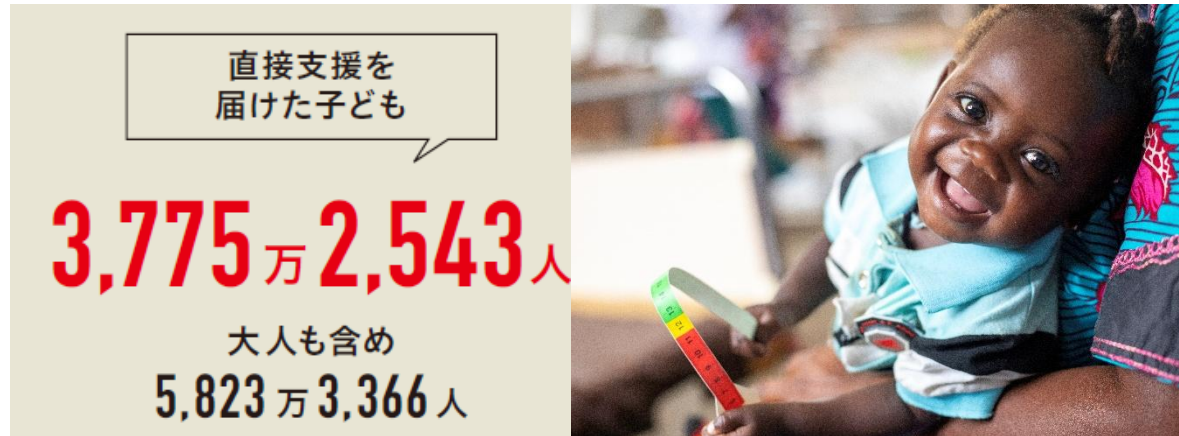
©FamilyMart

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

ファミリーマート夢の掛け橋募金のご支援のおかげで 子どもたちにたくさんのポジティブな変化が起きています

数字で見る2025年のセーブ・ザ・チルドレンの活動

日本を含む
約100ヶ国で
活動



日本国内の主な活動



海外の主な活動



国内の活動

「ファミマこども食堂」と連携した子ども向け防災ワークショップ

セーブ・ザ・チルドレンとファミリーマートは9月の防災月間に合わせ、2025年9月、子どもたちとそのご家族に、楽しく防災について学び、防災意識を高めていただくことを目的に、ファミリーマート本木東町店(東京都足立区)のイートインスペースを活用し、「ファミマこども食堂」と連携した「子ども向け防災ワークショップ」を開催しました。

非常用持ち出し袋の中身を考えるワーク

「非常用持ち出し袋」の中に何が入っているのかを皆で一つずつ取り出して確認した後、ファミリーマートの売り場で「持ち出し袋の中に入っていたら良いと思うもの」を子どもたち自身に選んでもらいました。子どもたちがそれぞれ選んだものは、割りばし、紙コップ、お菓子、ウェットティッシュ、水、絆創膏、Tシャツ、レインコートなど。「小学校で防災訓練をしたことがありますが、**非常用持ち出し袋の中身を確認することは初めてで勉強になりました。**」といった声が寄せられました。



売り場から必要な防災グッズを選ぶ

非常用持ち出し袋の中身を確認

新聞紙で食器づくり

身近なもので工夫する体験として、今年は**新聞紙でお碗**を作るワークを行いました。完成したお碗にラップを敷いて「ファミチキ」を盛り付け、災害時でも、工夫次第で温かく美味しい食事ができることを楽しみながら体験しました。防災ワークショップの後は、子どもたちが店内で、レジ打ちや飲料補充などのお仕事体験も行いました。



新聞紙でお碗づくり

レジ打ち体験

国内の活動

能登半島地震・豪雨 子どもたちへの緊急・復興支援

セーブ・ザ・チルドレンは2025年も、2024年能登半島地震および9月豪雨で影響を受けた能登地域の子どもたちのために、様々な活動を続けてきました。

能登子どもサポート給付金

能登5市町で被災した子どもたち**4,051人**に支給。新入学のための制服、通学カバン、靴、教科書、部活動の道具などの購入に役立てられました。「家計が厳しいのは判っているので、親に頼みにくかったけど、すぐを買ってもらえて嬉しかったです」「自分好みの物をそろえる事ができました」など、子どもたちが購入したいものを選べた喜びの声が届いています。



給付金の利用者提供写真

能登子どもスポーツ・文化ファンド

子どもたちが自分らしく過ごせるよう、子どものスポーツ・文化活動を行う**51の団体**に費用を助成しました。これらの団体は、練習場所が地震で壊れたままなど、様々な困難に直面していました。地元の団体や自治体からは、「助成がありとても助かった」との声が寄せられています。



飯田町燈籠山祭り保存会



穴水町スポーツ少年団
穴水町ソフトテニス教室

小学校の設備支援

子どもたちが安全に体を動かせる環境整備のため、輪島市の**仮設6小学校**のピロティの緩衝材を支援しました。子どもたちからは「遊ぶ場所ができてよかった」、「人工芝だと怖くないので思い切り走れる」といった声が寄せられています。



輪島市仮設6小学校のピロティ

国内の活動

子どもの貧困問題解決にむけて

セーブ・ザ・チルドレンは「日本国内の子どもの貧困問題解決」をめざし、様々な支援活動を行っています。このうち、「子どもの食 応援ボックス」を届ける活動では、ファミリーマートの有志従業員もボランティアとして、倉庫での梱包作業に毎年協力くださっています。

子どもの食 応援ボックス

給食のない長期休暇中の子どもの食を支えるため、夏・冬休みに合わせ、のべ**1万9世帯**へ食料品や文具を提供しました。「寝る前の空腹がなくなりしっかり睡眠取れる」(中学生)「物価高騰で本当に困っていたので子供と3人で開封したとたん、しばらく我慢させなくていいんだ、と涙が出ました。」(保護者)といった声が寄せられています。



応援ボックスを受け取った世帯



応援ボックスの梱包作業を行うファミリーマートの有志従業員

ハロー！ベビーボックス

低所得などさまざまな困難がある妊産婦の方を対象に、紙おむつやおしりふきなど育児用品を詰めた「ハロー！ベビーボックス」**1,500箱**を届けました。「物価高のなかすごく助かる」との声が届いています。



ハロー！ベビーボックス

子ども体験プログラム

子どもたちに多様な体験の機会を提供するため、アート鑑賞、ミュージカル観劇、野外活動体験、ブロック教室を実施し、**子ども87人、保護者33人**が参加しました。「みんなと仲よくなれて楽しかった」(小学4年生)などの声が届いています。



ブロック教室の様子

海外の活動

すべての子どもが質の高い教育を受けられるように(教育分野)

武力紛争や気候変動、その他の危機の影響を受け、2.5億人以上の学齢期の子どもと若者が学校に通うことができていません。セーブ・ザ・チルドレンは、あらゆる困難にある子どもたちが継続して質の高い教育を受けられるよう、2025-2026年も世界各地で活動を行いました。

モザンビークでの教育支援

モザンビーク北部ナンブラ州では、約120万人の子どもが学校に通えておらず、子どもの半数以上が児童婚を経験するなど、子どもたちの教育機会が奪われています。セーブ・ザ・チルドレンは、学校に一度も通ったことのない子どもが学習の遅れを取り戻すための教育プログラムを提供し、**修了者1,200人中630人が公立小学校へ移行**することができました。ラジオ番組やSNS発信を通じて地域住民に児童婚のリスクや教育の重要性を伝える青少年主導の啓発活動も実施しました。



学用品を受け取る子どもたち

レバノンでのシリア難民の子どもへの教育支援

レバノン北部では、12万人以上のシリア難民が暮らしています。経済危機や紛争の影響により貧困率も高く、経済的負担、児童労働、複雑な入学手続きなど多くの障壁により、小学校の出席率は42%にとどまっています。セーブ・ザ・チルドレンは、学習支援センターにて、学校に通えていない子ども**176人に基礎的な読み書き・計算**の授業や、社会性・情動に関する学習を取り入れた活動を提供。教員の能力強化研修や、教育の重要性を伝える啓発活動を養育者に対して行いました。



社会性と情動の学習の様子

海外の活動

地域に根ざした支援で子どもの健やかな成長を支える(保健・栄養分野)

世界では、いまだに1日1万人以上の子どもが、十分なサービスと栄養を得られないまま、予防可能な原因で命を落としています。セーブ・ザ・チルドレンは、基礎的な保健サービスへのアクセスが難しい地域を対象に、母子保健サービスの改善と栄養支援、農業支援や貯蓄貸付組合の設立を通じた食料確保と生計向上など支援を実施しました。

ベトナム 少数民族の生計向上・栄養改善

ベトナムは経済・社会発展を遂げる一方、少数民族が多く居住する地帯では依然として貧困や栄養不良が深刻です。セーブ・ザ・チルドレンは、農家の生産者グループを中心に、**家畜飼育や野菜栽培**に関する研修と指導を実施。また保健センターのスタッフや村の保健人材を対象に研修を行い、**妊産婦と乳幼児の適切な栄養ケア**、母乳育児の促進、離乳食の調理方法、衛生管理などの知識と実践力を強化しました。



身長計を用いた子どもの成長モニタリング

ウガンダ 農家の生計向上支援と母子栄養指導

ウガンダ北東部では牧畜や雨水頼みの農業に依存し、干ばつの影響で食料不足が続いています。モロト県では子どもの栄養不良が深刻で、乳幼児の約半数が低栄養により亡くなっています。セーブ・ザ・チルドレンは、干ばつに強い農業・畜産支援、貯蓄貸付組合の立ち上げ、**農家の貯蓄促進支援**や、**母子の栄養・保健**サービスの強化を通じた栄養改善に取り組みました。



貯蓄の大切さを学び、小規模ビジネスを開始した農家の母親

「ファミリーマート夢の掛け橋募金」が支える セーブ・ザ・チルドレンの様々な活動 詳細は、年次報告書をぜひご覧ください。

皆さまからいただいた募金は、緊急・人道支援、保健・栄養、教育、子どもの保護、気候変動や防災、子どもの貧困問題解決などの分野において、直接支援を届ける活動はもちろんのこと、社会啓発やアドボカシー（政策提言）活動など、子どもの権利を推進するための包括的な子ども支援活動の実現に役立てられています。



活動詳細は、年次報告
書をぜひご覧ください。



https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/2025_SCJapan_AR_Japanese_new.pdf



Save the Children

あたたかいご支援を
ありがとうございます
今後ともよろしくお願いいたします。